

平成28年度第1回南部地域政策総合会議 会議録 概要

1 開催日時

平成28年9月5日（月）午後2時から午後4時30分

2 会場

徳島県南部総合県民局 美波庁舎 大会議室

3 出席者

(1) 総合会議委員 17名（3名欠席）

① 地域住民代表委員 16名

青木委員 石本委員 尾崎委員 加藤委員 兼松委員 黒川委員 小林委員 酒井委員
榊野委員 鶴委員 橋本委員 濱崎委員 林委員 平井委員 町田委員 松田委員

② 県委員 1名

小泉南部総合県民局長

(2) 評価部会委員 1名

石田部会長

(3) 管内市町長 5名

岩浅阿南市長 坂口那賀町長 福井牟岐町長 影治美波町長 前田海陽町長

4 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

①平成27年度の「徳島県南部圏域振興計画」の実施状況について

②平成27年度の「南部圏域課題解決プラン」の評価について

③平成28年度の「徳島県南部圏域振興計画」の取組みについて

④「徳島県南部圏域振興計画」及び「南部圏域課題解決プラン」の変更案について

(3) 意見交換

(4) 閉会

5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議設置要綱
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議委員名簿
- ・ 平成28年度第1回徳島県南部地域政策総合会議配席図
- ・ 資料 1 平成27年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価（概要）
- ・ 資料 2 平成28年度徳島県南部地域政策総合会議 計画推進評価部会報告
- ・ 資料 3 平成28年度の「徳島県南部圏域振興計画」の取組み
- ・ 資料 4 徳島県南部圏域振興計画変更（案）抜粋
- ・ 資料 5 南部圏域課題解決プラン変更（案）抜粋
- ・ 資料 6 徳島県南部圏域振興計画（案）全体見え消し
- ・ 資料 7 南部圏域課題解決プラン（案）全体見え消し

<発言概要>

(A委員)

阿南のAでございます。よろしくお願いたします。まず1点目はですね、皆さん知ってのとおりオリンピック、リオデジャネイロオリンピック大変盛り上がりました。徳島県としてもタカマツペアの松友選手が大活躍ということで、藍住のライブ見に行こうかと思っただくらい力を入れて見ておった次第でございます。そしてオリンピック終わったからああええわと思っただら、次は阿南の羽ノ浦出身のパラリンピック、有吉利枝さんね、いよいよ9月7日、ボートということで、つい先日、市長もおられますけども、市役所の横に垂れ幕となって、もう市民みんなで応援しようといった視点で、また寝れない夜が始まるのかなと思いつつ、まず発言をさせていただきます。なんでそんな発言したかという、やっぱりオリンピック、次のオリンピックは2020、東京オリンピックでございます。ここにサーフィンが正式に種目になったという風な記事を確認いたしました。サーフィンと言えば県南で記憶に新しい97年の徳島プロサーフィン世界選手権大会や、穴喰町を音頭に東洋町生見海岸で行われたその大会、また第34回全日本サーフィン選手権大会等々、やっぱりメッカであります。私サーフィンしないんではじめピンとこなかったんですけども、有名な選手、名前出すと固有名詞キリないんで、たくさんおられます。いつもですね、世界に誇るアウトドアフィールド、サーフィンのフィールドの提供をしっかりと力を入れてやって欲しいと。振興計画の中で50ページ辺りですね。早目に合宿とか誘致に動いていただきたいなと思っております。それと同時に、当然野球のまちあなんでございますので、これも日本が無理なら他のチームでもいいです。是非ともオリンピックのキャンプ地誘致というのは、もう既に誘致合戦というのが非常に盛んでございます。是非とも徳島県はじめ、阿南市さんまた各市町さんとも動きを入れていただきたいと。野球に関しては関西WMGもあるという風におうかがいしております。是非ともそういうのに力を入れていただきたい、野球がみたいと個人的にも思っております。県の方にはこの大きな大会誘致、全国大会レベルをいかに誘致していくかという計画を立ててやはり1つ1つ誘致をしていただければありがたいかなと思っております。

二つ目は計画の63ページ辺りです。8月8日にですね、4県の知事さんが四国遍路世界遺産への推薦要書を、今回で3回目だったと思います。文化庁長官に共同提案書を提出いたしました。やはり県南部でももっともっと世界遺産登録、四国遍路の世界遺産登録を目指して盛り上げていきたい。その先にあるのはやはり何かと言うと交流人口を増やしていくといった視点でございます。これについて非常に面白い取組みが阿南市、先行して言うとなればあれかも知れませんが阿南市新野町で、今実はまさにですね、シームレス民泊と言いまして、繋ぎ目の無い民泊を進めておられます。あまりピンとこないと思います、委員の皆さん。シームレス、繋ぎ目の無い、つまり平常時はお遍路さんの民泊として活用し、災害時には避難所として活用する民泊を今、新野町で、私地元出身新野町でございます。新野町で活発に進めてございます。推進協議会を立ち上げ、また先進地もつい先日、市長さんはじめ私も一緒に見に行った次第でございます。人もですね、交流人口を増やすための四国遍路というのはまさに世界遺産になっておかしくない、なって当然だという風に思っております。是非ともそれを推進していただくとともに、県の方をお願いしたいのは、データですね、交流人口図とか宿泊者数というのを、四国遍路のみに特化したデータが欲しい。宿泊等の全体のデータというのは各市町村持たれてると思うんです。そうじゃないんです。これ面白いのが、四国遍路のみに特化したデータを集めて、もし集まっていないのであればそれに対する何かプロジェクトチームを局長さん是非作っていただいではね、これはまた県の方、総合計画審議会でも言おうと思っております。そういった視点で取り組んで、交流人口を増やす方法を考えていただければありがたいかなと思っております。

ます。

最後3点目、53ページですね、ずっと私質問してます。DMV、これの現状。JR北海道は大変なことになって、それから余り動きがないかなと思っております。ハード面もちろん予算等の必要性もあるし、地域住民の方々のご同意や活性化また進行具合というのが非常に注目しております。DMVこれずっと質問しておりますので、その現状等も少し、前向きに検討していただければと思っております。

以上3点でございます。

(B委員)

こんにちは、Bです。3点ほど意見や質問等させていただきます。

1つ目は地域医療の方の関係で、徳島大学の地域枠の医学生募集があと2年で終了するとおききたんですけど、やはり地元の医師を育てない限りは、医師数がいくら多くなってもここ徳島県に留まって、地元をみていただける、地域医療を守っていただける方が少ないと思います。だから人数を減らしてでもやはり自治医大と同様に、2名でも3名でも予算がつく限り続けられることを切にお願いいたします。

それと2つ目。この7月に国交省の方も行ってきたんですけど、やはり命の道路として、南海トラフ対策として重要な海部道路、海部道路だけではないんですけど、桑野福井道路の早期事業化を実現するためにも、官民一体、住民は住民で行く、行政は行政で行く、行政の手の裏も知らん内に住民がつけてくれつけてくれでは、これではつけてくれません。だから、そこら辺りをこうしっかりと県の動き、市町村の動き、意見交換して、官も民も同じ気持ちでいかないといけないです。官の方に署名活動20万人集めてくれというのはこれ無理だと思いますので、20万集めたらこれ事業化するんですか。そんなんない？そういうの聞いたことあるんですけど。そういうのがわかっておればまた20万ぐらい集められます。そういうような感じで、熱意、どうしてもこう55号線1本ですから、早く、南海トラフが先か命の道路が先かという風に思っております。また教えてください。

それともう1点。急斜面の工事をするとき、南海トラフが近付いておりますから、急斜面の工事だけでなく、避難道路もしっかり確保すると、そういう風な方向がいいと資料の方にもうたわれておるんですけど、やはり急斜面の工事が先だという風な感じもうかがわれます。二度手間になると思いますので、今の時期ですから南海トラフの。避難道路また避難地、県がするのであればそれに町も荷担して、両方で住民にとっていい、安全であるとうたっているのであればその方向にさせていただきたいと思っております。

それとさっき45歳未満の移住を考えておると思うんですけど、インターンシップの子4名、帰ったんですけど、やはりその子達が話すには、2年ぐらいはここはいいですねえ、て言うんですよ。だけど、やはり都会に暮らしてる子ども、全部が全部ではないんですけど、マックが欲しいとかそういう他愛も無いこと言うんですけど、それを田舎に住めば田舎に従えて偉そうに言うんですけど。若い子の気持ち、ここのインターンシップで良さを知ってもらおうと同時に、若い人たちにもっともっと田舎暮らしのいい所を教える方向に、ただ私も泊めるだけやったんですけど、これはいかんということで、若いことお話して、田舎の良さを教えております。だから交流人口を増やすのであれば、もっともっと中へ入らないと、人数だけではこれいけないところもあると思っております。

(C委員)

失礼いたします。私は安全安心して暮らせる地域づくりということで、過去に何回となしにお願い

しております、岡川の改修なんですけれども、未だに3分の1ぐらいしか進んでないということで、先日もその川にですね、氾濫してたときに落ちた人にお会いすることができたんです。そしたらその方は日亜化学にお勤めで、畑田地区にお帰りになる途中で、川の氾濫を知らないでバイクで走ったらしいんですよ。そしたら溝の中に落ち込んでしまって、水流がすごいもんですから、死ぬんでないかと思ったって言うんですね。そしたらちょうどその時に、水位を見に地域の住民が出てきたものですから、その住民に何人かに助けられて、やっとこさ上がったんだっていう話をされて、本当に身に詰まる思いで話を聞かせていただいたんですよ。そこの所で死亡事故が出ない内にね、なんとか改修事業を早めるなり川底を少し深くするなり、なんとかしていただかないことにはこれいかなあということだったんですよ。前にですね、建設部長さんがおっしゃったのは、Cさん、道路の冠水がひどい所に橋かけたらどうで、て話しとったんですけど、橋かけるってどういうことですかって思ったんですけどね、そんな話を聞かせていただくと、なんとかちょこつとの間でも、部分的にでもなんとかしてもらわないといけないなと思って、本当に死亡事故が起こってからでは困ってしまうので、是非もう一度検討のほどお願いしたいなと思っております。

それでまた、今高速道路のインターチェンジが大野にできることで、一生懸命土地の買収や橋なんかはかかっただけなんですけどね。ですけれどもやはりインターチェンジにすることによって盛り土にするというんでまたそこところ水がせき止められるんでないかということで地域住民は非常に心配しております。ですので盛り土でなくて水捌けの良い方法を考えていただくことが必要なんでないかなと思っておりますので、その辺も合わせて検討のほどよろしく願いいたします。

それと話はガラッと変わるんですが、私阿南市の女性協議会の会長を今させていただいておるんですが、先日ときわプラザの方で映画の鑑賞会がございまして、行かせていただきました。ものすごい綺麗な映画館で、大分前にも行ったんですけども、こういうものがあつたんだっていうことを再認識するほど冷房は効いてて快適な映画館でございました。ところがPRが不足しているもんですから、阿南市で担当が当たりましたら地域の方々、女性協議会に入ってらっしゃる方々にパンフレット配ったりなんなりするんですけども、毎月1回ずつあるっていうにもかかわらず、一向に案内っていうものがどこにきてるのかわからん状態なものですから、是非その辺ですねもう少し、こんないい映画を毎月やって、快適にそれで無料でですね、ときわプラザまで行ったら無料で観れるっていう映画館があるのにね、是非もうちょっと宣伝の方法を考えていただけたらいいなと思っております。よろしく願いいたします。

(D委員)

よろしく願いいたします。私の方からは1点だけ、提案というか、皆さんで考えていただければということなんですけども、この後もG委員から一緒のことがでると思うんですけども、私ちょっと交通関係のことやってまして、JALさんとANAさんと色々お話をさせていただいているときに、今徳島ー羽田間というのは日本で結構飛んで、人数も乗ってるっていうとこなんですけども、唯一乗ってないのがどこかいていますと、昼間です。平日の昼間の便というのが実はほぼ空席です。搭乗率は50数パーセントまできてるんですけど、朝と夜が100パーセントに近くて真ん中が10から20ぐらいで、ちょうど相殺して50ぐらいにみえるようになってます。そこのところをいかに埋めるかっていうところが実は航空会社が頭悩ましてまして、どうにかならないかっていうお話を色々していただけるんですけども、そのときたまたま東京のある区に行きまして、高齢者が非常に多くなってお話をきくと、介護とかそういうのを受けられない、都会なんで人が多すぎて、介護を待ってる人がいっぱいいる区があるんですね。で、地方に行けばそれなりに受けられるサービスが都会に行け

ばほとんど受けられない、という話があったので、可能であれば昼間の内に徳島に来ていただいて、平日だけこちらに泊まっていただいて、休日には実家に帰って、実家というか都会に帰っていただくようなシステムってできると、今困ってる人たちがそれなりに色んなところで得をするんじゃないかとちょっと考えました。それがどれぐらいの人数でどれぐらいのお金をやればペイするかっていうのは今から調べてみないとわからないんですけども、やはり人が来ていただかないと徳島県も全国の他県に負けず自然減少で人口が減ってますので、いかに人を引っ張ってくるかっていうのを考えたときに、引っ張ってくるのが45歳未満というよりどちらかというと45歳以上の高齢者の方が方が遙かに身動きもとれますし、その方々の方がひょっとすると景色とか生活には合ってるのかなと思いますので、その方々にいきなり定住してくださいっていうとハードルぼーんと上がりますので、定住ではなくて2、3日お試しで泊ってもらって、帰ってもらって、何回か来てもらったらやっぱりここに住みましょうみたいなことを長期的なスパンで考えながら、それを何人かでぐるぐるローテーションするなり、色んなことを長期的な目を向けて考えていただくと非常にありがたいなと思います。そのためには色んなハードルがあります。飛行機は安く済むんですけど、飛行場からここまでほとんど来れません。セカンドアクセスがほとんど徳島県ないんですね。徳島駅に行くにしてもシャトルバスと言いながいっぱい停まります。それが都会の方にとってはとっても不思議な感覚になってますので、そういうことの問題点を色々解消しながら、高齢者をいかに取り込んで人口を今後繋げて行くのかということをごさんで考えていただくとありがたいなと思います。

(E委員)

開式の当初にご案内をいただきましたEと申します。前任の阿南商工会議所の専務理事の上杉が欠席をいたしまして、急遽代理ということで私の方に指名がございました。これからよろしくお願いたしたいと思っております。私は商工会議所の副会頭という立場で出させていただきます。事前に担当者の方に私どもの職場の方にお越しをいただきまして、今日の資料を頂戴いたしました。本当に心遣いをいただいたんですけど、資料を十分チェックできないままに参加をさせていただきました。県の方、阿南市長さんをはじめ、県南の首長の方にお見えいただいております。商工業者を代表して今日の資料からはちょっと外れるかもわかりませんが、お願いという立場でお話をさせていただきます。今日は9月の5日ということでニュースにもなっていましたけれども、ちょうど高校卒業者の就職解禁というますか、各企業さん、職場の方に書類等を出させていただきます、履歴書等応募書類の受付が今日からはじまります。入社試験が始まるのは9月の16日なんですけど、手前どもの職場でも今日早速8時半過ぎに県南の方の就職指導担当の先生の方がお見えになられまして、今年はこの子を紹介したいと思っております、また入社試験の方よろしくお願ひしますということで、問い合わせをいただきました。私事になりますけれども、私阿南の方からお邪魔させていただきます。事業所が阿南、小松島、徳島市、そして板野郡で、本社が徳島ということでなかなか求人、人の手配、人の確保というのが非常に私どもはホテル・外食業中心なんですけど、非常に厳しい状態になっております。できれば徳島市内それから板野郡、西の方の各高校にも求人を出したいところがあるんですけども、なかなか本社が阿南の場合応募いただく方が少のうございまして、どうしても私どもの場合、富岡東高校さん、新野高校さん、那賀高校さん、小松島西高校さんを中心に出させていただきますご紹介をいただいております。むしろお願いできるような形であれば、県南の方の各中小企業、企業さんの方に就職、これから9月10月と9月16日以降就職が決まってまいります。どうしてもその中から就職するとなりましたら高校生の方、運転免許を取りに行ったりするようになると思います。県南の方の阿南以南の、那賀町引つくるめまして、各中小企業さんの方に就職が決まったような方があれば、運転免許

を取りに行く費用、私今60なんですけど、私が取ったときに比べますと本当にえっ、そんなにかかるのというような非常に高額になってきますので、南の方の企業に就職していただいた方に補助金の方を、もちろん各市町村さんの方にもお願いしてもいいところなんですけど、補助金を出していただいたりとか、県南の企業を新卒の方にお選びいただく場合に、何かメリットのあるような特典を付けていただければ、商工業者としてもっともっと南の各企業さん、中小企業さんに来るんじゃないかと、その辺り考えさせていただいたということが1点でございます。

それと、今鳴門市さんとかが中心となって、阿南も市長さんが一生懸命旗振り役をしていただいておりますけれども、中小企業の振興条例等々、新しく企業を県外から呼び込む、同じ徳島県内から新しい企業を呼び込む、それからベンチャーとかですね、今非常に補助金とか色んな特典があるんですけど、既存の企業さんは最初からあるからいいかということではなかなか目を向けていただくことが、ほとんど補助金等の数が少ないように考えられます。地元でもっともっと頑張りたい、それから頑張っている企業もございますので、その辺りありましたら、色んなアドバイス等いただきながら進めて参りたいと思っておりますのでご協力いただければと考えております。以上でございます。

(F委員)

阿南市に住んでいますFといいます、よろしく申し上げます。私は2つあります。まず1点が、移住・定住の促進なんですけれども、この部屋に到着してからそれこそGさんにききたいことがあるんですけど色々きいてたんですけれども、空き家は県南地域でも多分すごく件数としてはあると思うんですけど、人が住んでもいいよっていう空き家がとても少ないと思っています。Gさんがそういう空き家を探して人が住めるような交渉とかをされていて、美波町では住める空き家は大分あるのかなって思うんですけど、どういう風に持ち主の方に貸していただくか、たとえば譲っていただくか、そういうのをどうしたらいいのかっていうのを本当にGさんから伝授していただきたいなと思っています。私徳島に来て4年になるんですけど、残念なことに住める空き家はありませぬ。それは地域がそういう地域なのかも知れないですけど、やっぱり都会からの移住者っていうことで、情報も発信してますから、都会から徳島県とかに来たいっていう人から、たくさんたくさん来るんですね、匿名だったり全然なんか知らない人からもあるんですけど、仕事がないから田舎に来れないっていうプラス、住むところがなくてどうしても人は来れないので、そういう方達の本気度はわからないんですけど、住むところが見つければ紹介しますけれども…というので、なかなか県南の方に人をつなぐことができずにいます。できればバラエティに富んだ物件、色んなパターンがあると思うので、たとえば高齢者の方向けだったりだとか子育て中だったりとか、子どもはまだいないけれども若い夫婦だったりとか、まだまだ学校卒業したばかりで田舎暮で何かしたいって人とか色んなパターンがあるので、バラエティに富んだ物件を準備できれば結構人も呼べるのではないかなと思っています。それこそあとどうやって貸してくれる、譲ってくれるという空き家を増やしていくのがすごく課題なんじゃないかなと思います。それに向けてどういう風に交渉していくとか、空き家の件数ではなくて、人が住める、貸してもらえる空き家の件数をもうちょっときちんと把握していただきたいなと思います。

もう1点なんですけれども、さっきDMVの導入を進めているということだったんですけど、県南地域の状況を考えると、どちらかというとBRTといって、バスラピッドトランジット、バス高速輸送システムの方が利便性も高く応用が効くので、現実的ではないかなと考えています。そのまま線路を使うということなので、BRTとかについても可能性があることとして調査とか検討をできればお願いしたいなと思うんですけど、大きなことなので、誰にこういうのを検討してもらえます

かってきけばいいのかな、提案してみるのがいいのかな、というのがわからないのでちょっとそこは教えていただきたいなと思います。さっきD委員さんが都会の高齢者をこちらにたとえば呼んで、お試して過ごしていただいてまた帰っていただくってことをお話してたんですけど、私がいつも思っているのは、それぞれの人が車を運転するっていうのが徳島県では前提になっているんですけども、都会からD委員さんがおっしゃるようにちょっと来ていただいて、ちょっと過ごしていただいてまた帰るにしても、都会の人って免許持っていない人があるし、ペーパードライバーがすごく多いので、車を運転するっていう前提ですべてを動かしてしまうととても困る人が出てくるし、これから高齢者もやっぱりできれば免許手放した方がいいなと思ってる方もいらっしゃると思うので、できれば公共交通をもう少し充実させる、利用者を増やすことも必要かなと考えるんですけども、公共交通についてどのように考えていらっしゃるかっていうのをお聞きしたいなと思っています。よろしくお願ひします。

(G委員)

Gです。よろしくお願ひします。移住のこと言い出したら5時間ぐらいかかるんちゃうんと思うんですけど、おかげさまで4月から県南地区の移住アドバイザーをさせていただいて、県南全体をみさせていただくようになって、ものすごい各地域の弱点と強みははっきりしてきたんで、信じられませんが、4年もきとって空き家がないんや。もう明日にでも作ってあげるわよ、今日でも手繋いで言いにいったげる。どうしてないん。信じられませんがほんまにこれはね。1番後ろにこないだ行った、みなさん見ていただこうと思って、ご用意してます。これはこないだおかげさまでやっとなら全体で地域が固まりになって、やっとなら形になってきたなと思います。全国のフェア行きました、県南ブースを一体化したんですけども、こういうことって簡単にしているようで、よそしてないんですね、目立たすようなこと、PRが。おかげさまでものすごい写真撮影に来ていただいたんで、こういう風に効果がでました。で、徳島ってものすごく認知度低いんですよ。移住フェア行ってもおらんのです人が、いっちょも来ないんです。徳島すっ飛ばされるんですよ。県南はただ、そこでキーワードが1個あるんです、あつたかい海って。それでいらっしゃるんです。那賀町の遠い所でも車ぶっ飛ばしたら1時間で行けますから、海に近い林業がある町でいけるんじゃないかと私は思っているんです。本当にちっちゃなキーワードで移住してくる方がいらっしゃるの、それをとりこぼしなく県南全体でしたいなと思っています。昨日も大阪のブース、フェアに美波町だけ行ってきたんですけど、県南で全部行かせていただいているので。その中でも美波町に来られたときに、あ、美波町でお受けできんっていうのがあるんですよ。たとえば農業したいってなったらうちやっば農業だけで食べていくっていうのは無理なんで、そのときはっと思いつくのがちょっとむかつくんですけど、きゅうりタウンの海陽。林業って言われたら、はっと思ったら那賀町さん、それから仕事って言われたらやっばうちで住んでいただくんですけど、どうしても阿南まで通っていただきたいから阿南の中小企業さんのお力貸していただきたい、それからさっきから出てますC C R C、元気な高齢者が大好きなちっちゃな波の内妻があるのが牟岐なんですよ。すごい好きなんですね、牟岐町辺りの海でちゃぷんちゃぷんするサーファーさんとかがいるので。各町ものすごい特色があるので、ブース来ていただいた方はよそへは私は回したくないんですけど、よそ町のとこ行かれた方でもうちへ回してっていうブースがあるんです。美波町はなんでも引き受けますんで、なんでもありの美波町と思ってやっています。そこで、大きな大きなPR効果が出てますんで、各町が固めて徳島県全体として移住者向けのいいところだと、空き家をいっぱい空けていただいて、やっていただくようにしたいです。うち本当に件数持ってますよ空き家の。だから移住者にいっぱい来てもらったらほいほい出せるんです、うちは今。用意できてますか

ら。それも今から今年度中に各町回りをまして、私が持ってる秘密、はないんですけど、どうやったら空き家ができるかをお知らせしたいなと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

それから、もう1個あるんです。ものすごい今困っていることが、移住のことで。仕事、ブース行ったら目の前に、定年前の夫婦それから夫から離れた妻、妻から離れた夫とかが来るんですよ。それとか1人の男の方とか来るんですよ。50代とか、仕事が本当にないんですよ。若い子でもそうなんですけど、地域おこし協力隊15万円です。それから県が募集してるの12万円ですよ。私がいつも仕事がありますかってきかれましたらありますって言うんですよ。本当にあるんです、いっぱいあるんですけど、ほっから先なんですね。いくらって提示してあげるんですよ。家賃も提示します、うちは2万から4万円です。5千円からあるかな、1万円もありますけど、2万から4万円です。それでやっていけるって言うんですけど、給料が私が提示できるのがいくらかっていうたら15万円なんですよ、男で。それ手取りやと思いますか、違うんですよ。女の人で12万円なんですよ。夫婦合わせて27万円、家賃が安いけん食べていけるけど、さあどうするなんですよ。これなんとかね、けど全国同じなんです、同じやと思っているんですけど。なんとかここをぐっと上げんと、いっぱい蟻がたかるようには来てもらえんのちゃうかなと思っています。みんなで力合わせてやっていただきたいなと思っています。よろしくお願ひします。

(H委員)

Hです。28頁の、熊本地震の教訓を踏まえて変更されている、これはありがたいことだと思っています。私らはこの熊本地震が発生したときにすぐに行きたかったんですけど、2ヶ月遅れで6月の30日から7月の2日にボランティアに入りました。そのときですね、やっぱりなんていうか入ったときに受付というのがあって、それがなかなか進まんですよね。ボランティアに入ったのは昼頃までかかったぐらいで、もっと早かったらもうちょっと仕事ができたのにな、というんで、社協さんか行政か知らんけど、やっていたんだろうけど、他の住民とも連携して、私らもし美波町にこういうことが起きたら、自主防災連合会の会長しておりますけど、それに加えていただいて、私達もその割合は勉強してますので、少しは役に立つんじゃないかなと思っています。日頃の連携が必要でないかなと、防災関係だけでなしに他の会議との連携を日頃からとっていたらスムーズにいくんでないかなと、この1点だけお願ひしたいと思います。私ら防災関係は、県民局さんが本当に力入れてくれます。なんも言うことないやけど、とにかく連携が必要やと思っています。きずな会は今、建築士会さん、技術士会さん、弁護士さんとも連携をとっております。そういう違う視野の人と連携をとっていたら、弁護士さんなんかはなんでやと思うけど、被災に遭ったときに、土地関係になってきたら弁護士さんが必要になります。そういうんで、勉強中です。以上です。

(I委員)

木頭森林組合のIです。1つだけ要望させてもらいます。搬出の間伐事業の補助金なんですけど、この補助金が1ha当たり減額されています。段階的にずっと下がっていくというような話であったんですが、27年度に第1弾下がりました。結論から言うとこれを下がらないように国に要望してもらいたい。徳島県では10年以上前から県産材増産ということでプロジェクトが始まりまして、我々も新間伐システムということで機械を導入して取り組んできてます。結果的に増産にもなったし若い人も増えてきたし、成果もずっと続いております。これからは間伐だけでなしに皆伐していこう、増産しようということで取り組んでます。県南の各市町は色々単独で助成もありますので、それらを活用しながらやっていこうと思っておりますが、木材価格がプロジェクトが始まった頃の細かい数字を申し

ますと、1万1,700円ぐらい、これは木頭森林組合の土場での価格ですが、杉が90%、檜が10%です。1万1,700円ぐらいです、1年間の平均が。それがリーマンショックの後は9,000円ぐらいだったりするんですが、25年度には1万2,000円ぐらいに回復しましたが、27年にまた下がって1万500円ぐらい。どれぐらい安いかというのは、木頭森林組合ができたのが平成4年なんです、その頃は2万7,000円ぐらい、2万8,000円に近い価格でずっと取引されてました。それから平成8年を境にずっと下がりっぱなしで今の状態になってる、大体3分の1近く、35%ぐらいまで下がっておるということで、非常に厳しい状況にあるということです。厳しい話しばかりじゃなくて住宅の着工戸数は段々増えてます。今年も1月から6月までの予定では毎年同じ時期と比べて5%ぐらい増えてます。それから数年前からCNPという言葉も出てますが、そういう風に色々あるんですが、まったくそれが価格に反映されてないという状況です。その中でもなんとか色んな補助金活用したりということでやっておるんですが、これ以上になると増産というのが非常に厳しい状況になってくると思います。補助金に頼らなければならないというのは非常に寂しい話ではあるんですが、我々にとっては非常に苦しい話でもありますので、よろしくお願ひしたいと思っております。以上です。

(J委員)

海陽町から参りましたJと申します。よろしくお願ひします。私はですね今回県南ということで、県南をフィールドにした海のスポーツ、A委員もおっしゃってましたけれども今回サーフィンについてちょっとお話をさせていただきたいと思ひます。東京オリンピック決まりましたので、ここから盛り上げていきたいというのがあるんですけども、実際地元には小さい時からサーフィンができる環境が海陽町にはありますので、ジュニア選手でも十分メダルを狙っていきそうな子ども達が育ってきてるんですが、意外とですね、そんな子もいるんですが、地元の方っていうのはそういう有名なちびっ子の事をあまり知らないし、実際移住してきてるっていうのもたくさんおられて、地元の人がサーフィンをする環境っていうのが少ないんです。スクール体験もできるんですが、1回当たり5,6,000円必要になってくるんです。ですからなかなかちょっとしたいなってスポーツにしては垣根が高いんですが、私も海陽町でスポーツクラブを、クラブマネージャーしてますので、今回はそういったのもあって、県の助成金使ったりしながら安く地元の子ども達にも体験できるような取組みをやらせていただいているんですが、その場合なかなかボードとか、指導員の関係もありますし、ボードを用意するのに、よくばり体験推進協議会っていうのがありまして、県外からきた子ども達に色々な体験をするっていうような協議会なんですけれども、そことうまいこと連携して安い値段でスポーツ体験を実施したり、是非県南の子ども達にも、よそから来るだけじゃなくて、地元の子ども達にも良い所を是非ですね、体験していただきたいなっていうのがあります。

あとですね、サーフィンっていうのは観光資源スポーツの、そういうのだけじゃなくて、移住の理由になるんです。実は私も主人がサーフィンをしてそれで移住してきたっていうのが大きな理由なんです、特に若いファミリーっていうのが海陽町にも結構移住してくる人が多いんですけど、どこでつまづくかっていうとやっぱりさいさい出てます、仕事なんです。なかなかそれでも環境がそこにかないものなので、絶対そこから離れられないっていう人も多いんですが、仕事がないので季節労働なんかをしながら、冬はぼんかん摘みをしたりとか夏は海関係で働いたりっていうのをしながら、なかなか正社員には辿り着けずにそれでも残ってるっていう人もいます。そういう収入が少ない人のためにですね、住居っていうのがさっきから問題になってますが、空き家をうまく活用するっていうのが大事だなと思ひます。海陽町も今ホームページで空き家が見れるようになったんです。私もさ

いさいチェックさせていただいているんですが、そういうのとか、リフォームの補助が出たりとかすごい取組みが色々してるんですが、実際引っ越してきてなかなか200万円、300万円単位でぼんとお金をかけれるかといえば難しいのが現状なので、もっともっと思い切った施策で、たとえば最初は何年かタダで住居はみてあげるとか、1万円、2万円とかですね、あとちょっとしたことなんですが、意外とインターネット代の設備が高かったりするんで、そういう身近な補助的なものも考えていただければなとすごく思います。

あとですね、サーフィン、観光に絡めてなんですが、最終的にやっぱりそういういいのを考えても、道路がついてないとダメだと思います。私の友達も関西圏から呼んでおいでって言っても、どうしても中村、四万十の中村まで行くんです。なんでってきいたら、そこの方が高速通ってて楽だからってということで、徳島入った途端に高速が切れてしまうので、ずっと下の国道通るっていうのが、どうしてもそこがネックになってしまうので、それをクリアするとだいぶまた違ってくるんじゃないかなと思います。是非考えていただけたらなと思います。

(K委員)

那賀川こまちのKです。よろしくお願ひします。2つほどありがたいなと思つたのは、地域医療なんですけど、以前は上那賀病院でそんなにたくさん色んなのが受けられなかつたんですけど、海部病院さんと日赤病院さん、それから徳大病院さん、もう1つ今日私資料忘れたんですけど、連携によって色んなところを受けれるようになって、先ほどもお話がありましたけれども、やはり山間に入りますと高齢者が多くて免許を返さなくてはならない方達が多くなつております。それでもなおかつ地域で色んな医療を受けれるということは患者さんもたいへん助かっているなと思つております。

以前から森林について色々小学生中学生、高校生大学生と色んなフィールドができて体験とかそういうのができればいいなと思つてたんですけど、和食の方でそういうフィールドができたということは嬉しく思つております。それで1つおうかがいしたいのは、私も去年森林づくりリーダー講習会っていうのがありまして、10回講座があるんですけども、それを受けさせていただいたときに、やはり自分ところの山を整備したいっていう方がおいでたんですよ。で、それをするにはどういう風にしたらいいんですかねっていう話になって、そういう体験とか自分がやりたい作業の場所が多分無いし、教えて下さる方も今は少ないかなと。事業体さんとか森林組合さんとか色々な方がおいでるんですけど、個人的にそういうことができる、そういう場所がどこか県有林とかそういうところであればいいなと思つました。それと、会に参加させていただいて、林業について色々拝見させていただく中で、やはり次世代の人達がどういふ風な山を作っていけるのか、県の方はどういふ風な画を描いておられるのかということをおうかがいしたいです。

それと最後なんですけど、私事で申し訳ないんですけど、この度林業の方で受賞をいただきまして、その際は県の方々の御指導から御協力、御配慮をいただきましたことを心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

(L委員)

いつもお世話になっております。JAかいふのLでございます。本日はよろしくお願ひ申し上げます。私の方からは南部圏域振興計画にも位置付けられております、きゅうりタウン構想について発言をさせていただきます。このきゅうりタウン構想については、海部郡の特産である促成きゅうりを核として移住就農による担い手の確保や産地拡大を目指し、地域活性化を図ることを目的としております。昨年6月にこの地で、南部県民局及び海部郡3町にご参加をいただき、きゅうりタウン構想を樹

立し、取組みを開始してから1年余りですが、早くも大きな成果を出しつつあるのではないかと考えております。ここで少し取組みについてご紹介をさせていただきます。

新規のきゅうり生産者を育成する海部きゅうり塾では、昨年度9名塾生がおりました。新たに4名がきゅうりの農家として就農をされました。また1年目から栽培をしていただき、ベテラン農家に負けない収量を上げておられる方もいます。4名のうち1名は穴喰の漁師から農業に入りました1名でございます。また今年度の海部きゅうり塾では2期生として3名のIターンの方が学んでおりますが、皆さん若いやる気のある前途有望な方で、これから責任を持って1人前のきゅうり農家に育てていかなければならないと考えております。さらに今年度2月には、各機関からご支援をいただき、海陽町吉野でございますけれども、次世代園芸実験ハウス、スマートハウスを建設し、全国でもあまり例のない養液、養液というのは水耕栽培でございます。取組みを開始いたしました。これら取組みについて、新聞をはじめ、NHKの全国放送でも取り上げられるなど、多くのマスコミにも取り上げられ各方面からの問い合わせや視察など、大きな反響がございました。特にこの秋10月からは、JAバンクの全国コマーシャルにきゅうりタウン構想が採用され、さらに全国から注目を浴びるのではないかと考えています。このコマーシャルは笑点、そしてサザエさん、めざましテレビなどで放映されることになっておりますので、皆様方どうかご覧いただけたらと考えております。よろしく願い申し上げます。これからのことといたしましては、新たなきゅうり農家の確保はもとより、きゅうりタウン構想の目標である産地面積や所得の倍増、また栽培技術に磨きをかけてまいりたいと考えております。まず新しい担い手確保といたしまして、U・Iターンなどの移住就農者の受入れには海部きゅうり塾での栽培技術はもとより、なんとといっても住居を含めた生活面でのサポートが必要と考えております。このことにつきましては、各町の皆様と取組みをしたいと考えていますので、どうかよろしくお願い申し上げます。次に産地面積の倍増についてでございます。国や県の補助金を活用させていただき、ハウスを建設し、海部きゅうり塾で学んでいる塾生など、若い担い手に貸し出すレンタルハウス制度を設けるなどして、産地面積倍増に向けて取り組んでまいりたいと考えております。また、栽培技術については実験ハウスで行っております養液栽培技術は、きゅうりの栽培においては、日本ではまだ確立されておられません。この養液栽培技術を実験ハウスの取組みで確立すれば、このことは日本初で、また栽培技術も日本一として全国に誇れるものと考えております。この養液技術が確立できると、まさにオランダ型きゅうりタウン構想実現と考えております。新規就農者でもベテラン農家に負けない収量が確保でき、収入アップも実現できることから、新規就農者の定着につながる重要な取組みであると考えております。以上の取組みにつきましては、今後とも県民局、また海部郡3町のご支援やご協力を賜りたいと考えておりますので、どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。以上です。

(M委員)

ゆめホール市民協議会ゆめづくりあなんのMです。ちょっと今までの話とは随分毛色が変わってしまうかと思うんですけど、まず1つ、英語村っていう形でとても活発に英語が議論されていると思います。実際の経済活動の上で英語が欠かせないというのは十分分かっているんですけども、阿南市内にも、阿南市だけじゃないかも知れない、県南にも、中国をはじめベトナムやインドネシアや色々な国の方達が来られてますし、その方達の日本の勉強もできるんでないかなと思います。何年前にチャーター便が徳島に中国からやってきたときに、大慌てで中国のメニューの翻訳のお手伝いをしたり中国語を勉強しなくちゃという機運がとても高まったんですけど、少し下火になってきてしまっているのが少し心配です。大人が中国語だけでなく色々な外国語を勉強したりお客様に備えてするっていうのは十分大事だと思うんですけど、たとえば東南アジアにルーツを持つ子ども達のために、英

語だけじゃなくって他の言語に触れる機会が何かの形で作られたらいいのではないかなと思います。これは私が阿南市国際交流協会に関わって、私の活動の中でもメニューとして取り上げていきたいと考えているところです。

もう1つ、県南伝統芸能があるんですけども、ずっと人形浄瑠璃のことでお話をさせていただいているんですけど、県南では人形浄瑠璃、那賀高校ができたんですけども、高校の人形浄瑠璃部が少ない、那賀高校だけ。阿南市の中学校で人形浄瑠璃を勉強して、高校で無くて忘れてしまって、新野の岡花座になかなか入りそびれてるっていうそんな状況です。つながっていかないの、なんとか高校でも人形浄瑠璃部ができればいいなと願ってまして、今新野中学校では岡花座の方達が教えに来てくれるんですけど、岡花座だけに頼るのも大変なので、先生達のネットワークで高校でも教えてもらえたらいいかなと思うのと、それから前回もお話したんですけど、人形のカシラをなかなか持つことができないので、県南にいくつもあると思うので、それをできたら共有、使われてる人形があれば使われていない人形もあると思うので、どこにどれぐらいあるのかがわかればいいなと思うのですが、それはきっとそれぞれの地域の方達がずっと昔から受け継いできているので、調べられたら嫌ってデリケートなこともあると思うんですけども、博物誌的にここにこういうような形のものが眠ってるということが明らかになればいいかなと思います。オリンピックの話も出てますけれども、オリンピックはスポーツだけじゃなくって文化の祭典とも言われている。4年後に向けて県南で人形浄瑠璃がこんな風に盛んであったし、こんな風に庶民が人形を支えてきたんだよっていうことを数字としても出すことができたなら、郷土愛であったり郷土に対する自信であったりと、思えてくるかなと思うんです。他の5年計画とかなんかありますので、文化についても4年計画とかして、今年はとりあえず阿南市内の人形がこんな風にあったとかいうことを調べて、進めていけばいいかなと思います。途中で出た中村園太夫座ですけども、残ってる資料が少ないのではっきりしたことは言えないんですけども、恐らく民間の人形座として日本で一番古いと言われてます。そういうことも発信していければかなと思います。どうしてこんなに人形の事が心配になるかというところで、段々地域の方達も高齢化して、人とのつながりも少なくなってきた、人形に対する思いというのが薄れてくるかも知れない。今の内に人形について、残されている人形とか保管されている人形とか明らかにしておかないと、使えなくなってしまう状況もちょっと生まれてきつつありますので、県民みんなの財産として誇りにできるような形で調査していただければなというか、もし私がお手伝いできるのであれば、博物誌的には私が手出ししてはいけないっていうところもあるかも知れないんですけど、お手伝いしていきたいなと思います。以上です。

(O委員)

Oでございます。文化の話から極めて遠ざかりますけど、私は今標高1,301メートルの所で今仕事をさせてもらっております。ファガスの森高城というところです。ファガスとはラテン語でブナという意味だそうです。それだけブナが多いところに住んでおります。皆さん今年は35℃、36℃と暑かったらしいですね。私はもう22、23℃寒うて寒うて。そんな生活をさせてもらいました。ここへ来るのは大変遠いんですね、こうして雨が降ったり台風の影響で雨が降るとね、本当に道が凍って凍って困るんです。来ながら地区の生活を憂っていたんですが、193号線、拝宮から十二社までの浸水対策についてお願いご要望をしたいなと思います。河川管理者である国交省、本当にお世話になってほぼ完了の運びとなっております。でも道路の方がですね、国道の方がどうなっていくのかお考えを、工事をしてくださるんだろうか、どういう対策をしてくださるんだろうか、して欲しいなとお願いをいたしたいなと思います。

それともう1点でございます。1, 301メートルのところに住んでおりますとね、いい面もたくさんあるんです。私はいつもこんな格好してますけど、山登りが大好きなんです。山登りは登山口が大変近いんです。そして今登山のブームもあるしたくさんの登山者が山に登っております。間違っても剣山の見ノ越の方へ降りなくちゃダメなのを、木沢の奥檜戸山の家の方へ降りて降りてしょうがないんです。そのたびに、2時間余ってかかって見ノ越までね、神山越えて送らなあかん場合が非常に多いんです。私も3回ありました。お金くれとは言えず、放っておくわけにもいかず、大変困っております。その措置としてね、県教育委員会の方からね、看板というのを、国定公園指定区域となると規制がかかるんですね。前もって許可の申請をしないとイケないとか色んな問題があるんです。それでしたら県の方が自ら立てていただけないでしょうか。こういう声をお届けします。以上でございます。

(P委員)

Pでございます。まずはお礼から一言述べさせていただきます。この度無堤防地区の加茂地区の堤防整備工事、昨日は台風で起工式は延期になりましたが、平成31年度完成予定ということで、迅速な対応ありがとうございます。また今年も台風が来なくて中学校の生徒も安心しておりますが、地元の人も工事には全面的に協力しますということで、どうぞよろしくお願い致します。それともう1点ですね、夏に通学路にダンプがたくさん通っておりまして、小学校の前の交差点のところにミラーが欲しいなということで、調査して欲しい、必要かどうか調べて欲しいと話をしておりましたら、その日の夕方に整備部長様他の方に駆けつけていただきまして、徳島県のスピーディーな対応というのに頭が下がって本当に地元でその話題が盛り上がりまして。お忙しい中ありがとうございました。

それでは本題に入らせていただきます。他県を旅行しておりますと、車から景色を見たり歩いたりということがありますが、気持ちが良い。不愉快感が感じられないんです。人が寄ってくる場所はとてもいい気持ちになるところが多いんです。ですけど一方ゴミが捨てられたり、歩道沿いの草や木が管理されていない、落ち葉が溜まっているとか、ガードレールが汚いとか、苔が生えているとか、川でも草や葦が生え放題になっているとかはそこに住んでいる住民でも不愉快な感じがあります。私の地域でもそういうところが何ヶ所もあります。アドプトとかがあって、皆で掃除とかすればいいよなという話になりまして、ネットで調べましたら徳島県ではアドプト制度や官民協働事業制度がとても整備されて、道路や河川、海岸、港湾、公園など多くの団体が既にされとるんですが、人口に対する割合、関わってる人がちょっと少ないように思ったんです。それは手続きがわりあいややこしいとか、出さないといけない書類がたくさんあったので、もっとシンプルにそういう手続きをして、官民一緒になってできたら町を綺麗に見せることができるんじゃないかと思ったので、またご指導とかよろしくお願い致します。何故そういう話になったかといいますと先ほどAさんがすごく四国88箇所霊場の世界遺産登録が盛り上がって、登録されると交流人口増など地域活性化が期待されると話したとおり、私の住んでいるところは太龍寺と鶴林寺に行くところの入り口というか通り道なんですけども、その阿南支援学校、養護学校ですか、それと阿南の西部公園を過ぎると鶴林寺と太龍寺の正面の玄関口になるんですけども、今ですとね、ちょうど阿南市大野町と加茂谷の境目のところで、玄関口が大野で赤い橋の上が加茂谷というような境目のところですね、毎日毎日住民は通るんですが、自分の玄関口が暗いイメージとか、うきうきするようなイメージが今持てません。左端には落ち葉がいっぱい溜まって、本当なら右手の方に那賀川がとてもきれくて、エメラルドグリーンのような那賀川が見えてきれいなんですけども、木もすごくすごく伸びております。そんなもん引くくめて、みんなで四国88箇所が世界遺産に登録されるような玄関口にしてみたいなという声が上が

ってますので、アドプトとか住民だけではできないので、できるような指導をお願いしたいと思います。

それと、もう1つですね、さきほどから移住についてたくさんたくさん話で出とんですが、私たちの地域は既に11組の移住者の方が来てくれておりまして、Gさんにも非常にお世話になって、わりあい移住してきた人との交流も出来て、消防団に男の人が入ったりとか、移住してきた人がお祭りをしたりとか出来てるんですが、先ほどFさんが言ったように空き家がないらしいんですね。空き家はあるのに貸してくれないというか、うまくいかないんですけど、お世話にしている人が岡山県の西粟倉村に視察に行ったら、県とか国さんは建物をこしらえてそこにどうぞっていうものを作っているらしいんです。それは国は半分、県が3分の1、あと残りが地元とかってというようなシステムなんですけど、加茂谷を元気にする会からですが、是非ともそれを加茂谷とか県南に作っていただいたら、全面的に移住者と仲良く交流をしたいので、よろしくお祈りしますとのことでした。伊島に来年の4月にそういうのできる、2階建ての5棟っていうこともきいておりますが、なかなか漁師とか仕事とか大変なので、伊島の次には是非県南にということをお願いいたします。

それと最後に、冬の12月の主要地方道阿南小松島線ですね、黒河バイパスの橋のときにはありがとうございました。非常に盛り上がってですね、希望もらったんですが、それからどうなったのってみんなでいよんですが、それから後があまり一般市民にはわかりにくいので、そこら辺を今日お話しけたらと思います。驚敷には大塚驚敷工場があって、あの道ができれば工場を大きくするというような話も聞いておりますので、是非とも完成をよろしくお祈りします。以上です。

(Q委員)

最後になりました、時間が少ししかありませんが、17年前からこの海部郡で観光業、特に牟岐の、を中心に関わりを持ってきました。当然ですね、年も取ってききましたので代表をバトンタッチしてもう1年半ぐらいになります。今何をしてるかという、和歌山県の道の駅で水族館をやっています。それから今移動水族館でいいまして、この近くですと岡山それから松山、今年は長野とか広島とかやっています。大体1会場夏場で8万人ぐらい平均ですね。道の駅は約10万から15万ぐらいの集客を見込んでいる。1年半前までここでダイビング関係それからマリンスポーツの運営をやってまして、代表を交代して今年何が起きたかっていうと、会社が漁協が80パーセントオーバーなんですね。組合の方の漁価が低迷して、なかなか水揚げがあがらないと。皆さん不安になってきたんでしょね。ダイビング事業やってると魚が獲れなくなるんじゃないか。そういうの多分あると思います。去年の決算期は黒字なんです。それでもダイビングやめるとその決定が株主総会でされて僕は慌てて飛んできたんですが、もう決定です。この自然とともに歩む地域づくり、これをするにはですね、1つはPRやアイデアだけじゃだめで、地元のやる気というか、それが特に海の関係ですとどうしても漁協とか漁師さん、その人たちが1次産業だけじゃなくて3次産業も入れてもっと開発をしていこうという意識を持たないとすごく難しいなと。17年間僕の方がそこを周知できなかった、これは非常に残念で自分自身情けなく思っています。なんでここで、徳島県だけができなかったのかなと。他のところはずっと展開しています。東南アジアでもやってんですがそこも展開して、無人島のところにリゾートできてる。何故ここでできなかったのかなと、ものすごい反省しています。ここでやめるのではなく、もう1回今度はもっと県南でいいですか、右下全体を考えた観光のための何かをやっていただいたら、実は思っています。ここから本題なんです、観光バス、先ほどDさんですかね、飛行機、まあガラガラです。午前中はバス結構いっぱいになってます、ビジネスマン。それからもう1つ観光客です。観光バスが迎えに来ます。行き先はほとんどが鳴門、渦潮を見てそれから西の方に行きます。ここの目の前に観

光バスがずらーって並んで走ってる姿ってあんまり見ませんよね。すごく大事なのは徳島県だけではなくて、高知県と、四国というくくりの右下、ここで大きな観光の仕掛けを作っていないと人動かない。インバウンドももっと強力で揃えないとダメ。17年間観光に携わってて、変わってないんですよ。もっと減ってるかも知れない。これはどういうことだっという。材料はたくさんあります。徳島はスキーもできる、川下りもできる、山もあります、海もサンゴまである。これをもっと売るには、単発じゃダメだと思います。車でほとんどお客さん来ます。電車で乗ってぐるっと回れる、そういう場所ではないです。ほとんど車です。そうすると車でたとえば徳島に出てきて、高知に向かう場合には、こっちは通りません。高速道路が向こうがいいので、もう高知行っちゃうんですよ。高知に行く足摺、何故かという名前が有名です。これ室戸も有名なんです実は。もう1つ、行くところがあるんです。高知はたとえば足摺の水族館、あそこに結構人行ってます。僕も今知り合いがあそこリニューアルかけて、リニューアルしたらまた呼ぼうと。それから桂浜の水族館。こんなに海がいいですけど、徳島県水族館1つもあります。動物園ちょっとありますけど。ここに来るとき観光バスはどこに行けばいいですか。目的地が無いんですよ。で、無い割には走る距離が長過ぎます。延々と、高速道路はひゅっって行けばいいですが、もう長過ぎます。途中でトイレ休憩、日和佐でした次どこに行けばいいですか。室戸のあそこでイルカやってます、あれも友達がやってます。結構来てますよ、施設があってイルカがいて、客寄せパンダって言い方はおかしいですが、あそこに結構人が来てます。数万人来てます。単価も高いです、イルカと泳ぐと。ですから徳島に、県南にそういう仕掛けと、高知と連携したインバウンドの商品作りが急務だと思います。でなければジリ貧になってきます。高知の室戸に負ける訳が無い。材料一緒ですよ、素晴らしいですよ。千年サンゴもあります。見せ方、見せる方法、場所、見てもらう方法、ないです。単独ではなかなか難しいです。私和歌山で今水族館やってますけど、国と県と町と我々地元と、漁協も含めて協力してやってます。建物はですね、何億もかけて建ててません。廃校になった学校の体育館を再利用してます。内装だけです。いくらでもアイデア出せばできます。後は地元の方のやる気と、地元の方の前向きな姿勢。ダイビングで1回負けてる私が言うのもおかしいですが、まだまだチャンスはあると思います。さっきここ来る前に今日東京から来たんですが、車で走ってきました、台風があるので。あいぽーと徳島ですか、フェリー乗り場が新しく長距離のできましたよね。あの目の前に素晴らしい施設がありますね。ただあそこにNP Oさんが既に入ってます。たとえばあそこそのまま水族館に。お金内装ほとんど要りません。基礎がしっかりしてます。それとたとえばこちらの方と連携する、バスを回す。体験も受付も向こうでやってきてもらう。ですから県南だけではなくて、徳島、空港、港、それから高知県と連携する。そういうような動きをしていかないと、観光なかなか伸びないと思います。ですからこういうアイデアは素晴らしいです。意味もいいです、ものすごく。ただどっかで県、国のレベルを持ってきてしないと、根本的な改善はできないと思います。時間がきたので終わります。余計なお世話で申し訳ありませんでした。

(経営企画部長)

今日ですね、16人の委員さんの中でD委員さん、それからF委員さん、G委員さん、J委員さん、それからP委員さんから移住・定住のお話をいただきましたので、お答えというかちょっと状況と決意表明をさせていただきたいと思います。皆さんのご意見の中でキーワードがいくつか出てきたと思います。まず移住をするためには仕事の確保、それから空き家中心とした住む場所が非常に重要だと。またですね、元気な高齢者にもターゲットを絞ってやっていかなあかんというようなご意見をいただきました。皆様方のご発言の中でキーワードがあったと認識しております。力を合わせて連携をしつ

かりとっていきべきじゃないかという風な発言が多かったかと理解しております。おっしゃるように県の中でも南部県民局それから県土整備部の方で今年1月には住宅対策総合支援センターということで、空き家バンクを所管しているセクションなんかも立ち上げました。そういった県の中での連携、また市町の皆様方と私達の連携、また市町の皆様方の中にもですね、担当者の皆様、集落支援員の皆様、地域おこし協力隊、それぞれいらっしゃって、そういったところと十分連携をとって進めていかなければならないというご意見をいただいておりますので、今年G委員からもお話ありました、新たに移住アドバイザーにG委員さんにご就任いただいておりますね、関係者が一同に集めて研修を行った、またお配りいただいている今日の資料にもございます、8月6日大阪で3,000人規模の移住フェアがあったんですが、1市4町この県南域が一体となって情報発信をしようかと、局長と私も参加しまして、連携しているのが非常に大切だということを感じましたので、これからも一生懸命取り組んでいきます。また情報発信についてもですね、やっていかなあかんというようなことで、きめ細やかな情報発信ということで、県の移住サイト、これ県全体のものでございます、それから県南のサイトも立ち上げております。きめ細やかな情報発信にこれからも取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きご指導よろしく申し上げます。以上です。

(産業交流部長)

K委員さんの方から山づくりの理念という大きな課題をいただいたのですが、おっしゃっていただいた森林クリエイト科ですね、単なる木材の林産物を生み出すだけでなしに、色んな多面的な機能を持ち、森林を守り育てることがございます。県としてはですね、平成26年12月に徳島県豊かな森林を守る条例、こういったものを制定して取り組んでいるところでございます。この中で色々森づくりに関します理念が定められてまして、取り組んでいるところでございます。県といたしましては、森林が健全で良好な状態が保たれるよう適正な管理を進めるとともに、林業の充実により健全な発展と森林所有者と林業生産者との調和を図ることとしております。具体的には県民や企業と連携した協働の森づくりでありますとか、また県や市町によります森林の取得、こういったこともしっかり取り組みながら森林の公的な管理を十分に展開して、県民総動員による森づくりを進めていきたいと考えております。以上でございます。

(県土整備部長)

道路河川に関係しまして何点かご質問いただきましたので、お答えさせていただきます。まず海部道路でございます。非常に重要な道路でございます。署名活動というところでございますが、4年ほど前にもBさんには大変お世話になりました、本省に要望に行ったところ、計画段階評価に採択されるなど一定の成果があったところでございますので、またその節にはよろしくお願ひしたいと思っております。それからB委員からもう1点、急傾斜の工事と併せて避難階段であるとか避難場所を整備したらどうかということでございます。これまで県南地域で避難階段36ヶ所、避難場所3ヶ所が完成しております。今年度も5ヶ所整備するようしております。引き続き力を入れていきたいと思っております。

C委員からは岡川とか道路の改修についてでございます。岡川につきましては、旧国道55号清水橋から下流1km区間の地区では完成しているということで、お話の中にもありましたように全体計画が3,500メートルぐらいでございますので、3分の1程度の完成ということでございます。予算の確保を図りながら、今後スピードアップに努めていきたいと考えております。それから、高速道路のインターチェンジの構造の話でございます。盛り土によらずにもっと水はけの良いたとえば高架構造とかやったらどうかというご提案でございますが、現在の計画は盛り土でございますが、盛り土で

あっても十分水はけが確保される計画を作っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。しかしながら高速道路建設によりまして水はけ、排水につきまして大きな影響が無いよう、いただいたご意見につきましてはしっかり国にお伝えしたいと思ひます。

○委員から国道の浸水対策についてご意見をいただいたところでございます。この箇所につきましては、過去の浸水被害を踏まえまして十二社神社の境内嵩上げとか、緊急対策が加わりまして大体目処がついてきたということで、残った本体の国道についてはどうするのか。1番いいのは道路自体を上げるということだと思いますが、なかなか莫大な費用もかかる、時間もかかるということで、○委員からはパラペットでとりあえずやっってはどうかというご提案もいただいているところでございますので、今後の検討課題として関係機関と積極的に協議してまいりたいと考えております。

最後にP委員からは、阿南小松島線の整備のことでございます。黒河工区が昨年12月に供用いたしました。一部区間で今年度から改良をすべく測量を開始したところでございます。なかなか改良区間長いんですけれども、一步一步やっしていきたいと思ひます。以上です。

(教育委員会)

3点お答えしたいと思ひます。

1点目は、英語だけでなくその他もという話で、M委員さんからいただきました。英語村につきましては英語中心ということですが、県教育委員会としましては、英語以外の取組みも進めておりまして、たとえば学校間交流という形でドイツニーダーザクセン州との交流、あるいはアジア諸国ということ台湾ですとかカンボジアとの交流も進めているところでございます。こういったことも踏まえまして、中国でありますとか、ドイツとか、英語以外の言語につきましても取組みを進めてまいりたいと思ひます。

2点目は、高校生の人形浄瑠璃につきまして質問をいただきました。阿波文化4大モチーフの1つであります人形浄瑠璃を高校生でもというところで、城北高校の横に人形会館というのがございまして、こちらの人形会館の改修をしております。地域の浄瑠璃の拠点といたしまして、また高校生の浄瑠璃活動、教育といたしまして、整備をしているところでございます。またこの秋には中学生や高校生、また全国の高校生が集いますジュニア浄瑠璃フェスティバルなんかも徳島市の犬飼農村舞台で開催することとしております。こうした取組みを契機といたしまして、全県的に高校生によりまして人形浄瑠璃の活動が広まっていけばという風に考えております。

3点目、これは○委員さんからお話をいただきました。登山道に道路標識をというようなお話でございました。国定公園ということになりますと、場所によりましては規制区域というところでこれも場所によりましては文化庁の許可をいただくようなお話もございまして、お話の中では県教育委員会の方で標識をということでございました。申しましたように規制区域がございまして、木の伐採をしますのもあらかじめ許可がいるという区域になろうかと思ひます。教育委員会の方でこうした標識を設置することが可能かどうか、ちょっと疑問のところもございまして、いただきましたご意見を教育委員会に持ち帰りまして、研究したいと、このように考えております。以上でございます。

(次世代交通課)

発表の機会を与えていただきましてありがとうございます。県庁次世代交通課です。先ほどA委員さんとF委員さんの方からDMV関係のご質問をいただきましたので、その件につきまして答えさせていただきます。

まずA委員さんからDMVの状況と今後の予定ということでご質問をいただきましたけれども、今

年度の第2回の総合会議のときにご質問をいただきまして、そのときに状況を説明させていただいているんですけれども、軽くおさらいさせていただきまして、その後のこととお話させていただきます。去年は阿佐海岸鉄道と関係自治体としましては県南の交通と活性化の起爆剤となるということで導入を進めておりまして、それに対する国のDMV技術評価委員会、こちらが去年の10月に中間とりまとめという形が出まして、その内容を受けて事業化が可能と判断いたしましたしてDMVの導入を進めておったところです。そのあとですね、去年度中に阿佐東線DMV導入協議会、こちらの方を立ち上げさせていただきまして、その協議会のメンバーがですね、阿佐海岸鉄道さんと徳島県、高知県、関係の町、オブザーバーとして国土交通省とJR四国が入ってます。そういった協議会を立ち上げさせていただきました。その第1回目の会合を今年の5月に開かせていただきまして、ただいまその協議会を通じまして今後の車両や鉄道施設の整備のスケジュールや方向について投げさせていただいているところです。またDMVっていうのは鉄道車両として活用するのみならず、初の鉄道車両にもなるしバスにもなる、そういった車両に特徴のあるものですので、そのバスモードの活用、そういったものの検討もしていきたいと思っております。あとA委員さんから住民に対する周知とかそういったお話もいただきましたけれども、住民とか若い世代の方々に向けた説明とかPR、ご理解いただけるような取り組みというのも今後考えさせていただきたいと思っております。

F委員さんからいただきましたBRTとか公共交通機関をどのように考えているかにつきましては、まずBRTとなりますと線路を道路に置き換えてバスを走らせるという風に理解しておりますけれども、阿佐海岸鉄道、電車でありまして、既存の線路を活かして、線路の上も走れる世界に2つとない特徴有る車両を活かして、地域の公共交通機関の代替とか、あるいは県南の振興に寄与するとか、あと防災面ですね、リダンダンシー、代替性を生かしたそういう取り組みもできるんじゃないかと考えております。

それからQ委員さんからも、県南を徳島県高知県、県南地域の誘客といいますかそういったお話をいただきましたけれども、こういったものも利用してですね、線路の枠を飛び越えた活用をさせていただけることでそういったところの課題解決に寄与していけるんじゃないかと思えます。そういった活用、運用の方法につきましても阿佐東線DMV導入協議会で今後諮っていきたいと思えますので、応援の方よろしく願いいたします。

(海陽町長)

海陽町長でございます。ご意見をきいておりましてほとんどは海陽町に関するご意見かなということで、大変大きな応援団になっていただいておりますというふうな思いもしておりますし、逆にそれを力として頑張っていかなければならないというふうに思っているところでございます。時間が押しておるようでございますのでAさんとかB先生、DMVそれからサーフィンに関する関係、あるいは那賀・海部モデルの地元のお医者さんの育成等々、本当にきゅうりタウンも含めてあるいはCCRC等色々ご意見をいただきましたけれども、サーフィンにつきましては本当に私の方もそんな気持ちでおります。日韓ワールドカップのサッカーが開催されましたときに大分県の中津江村にカメルーンが来まして、来るのが遅かったっていうんも含めて大変話題になりました。合宿ですごく全国的に中津江村が知られたことがあろうと思えます。確かにサーフィンは競技者自体が少のうございますけれども、県の方には私達も含めて一生懸命連携取りながらプレ大会とかそういうことができれば全国的にも優れた海部の河口のサーフポイントがありますので、そういったプレ大会とかあるいは小規模での合宿とかそういったことが開催できればということで、色んなご支援をいただきたいという風に思っているところでございます。

それから海部道路に関して命の道ということで、東日本大震災以降日本列島は確かに病んでいるんだろうなと思います。人間で言えば病気にかかっているのかなというように思っております。ですからいつ南海トラフ巨大地震が来るかわかりません。30年の間に70%とか80%の確率と言われておりますけれども、多分これよりも年数は早く確率も高くなっていくんだろうというように感じております。その中で海部道路よりも南海トラフ巨大地震が先に来るということになっては本当に困ります。そういったことで取組みを頑張っていかなければいけないというように思っているところでございます。

それに関してもう1点なんですが、実は1次避難所、たとえば避難タワーとかそういったものには国・県の補助等がございますけれども、私どもが今考えておりますような防災公園、こういったものにはなかなか担当課を通じて補助制度を探してくださいというようなことは言うてありますけれども、なかなか補助制度が見つかりません。第1次避難所にはありますけど第2次避難所についての補助制度が少のうございますので、そういったところについてこれから県当局にもご検討いただけたらなというように思っているところでございます。色々ありますけれども今日は時間も押しておるのでございますので、今日はこれで終わらせていただきます。色々貴重なご意見ありがとうございます。

(美波町長)

美波町長でございます。皆様から色々うかがっております、ありがとうございます。平成28年度の折り返しの時期でございますけれども、平成28年度と言えば私どもにとってはちょうど合併して10年が過ぎて11年目。そしてまた地方創生も本格実施というようなことでありますけれども、その中で私の方で町としてしっかりやっていかななくてはいけないと思っている、そしてやりかけていることを2、3報告をさせていただいて発言にかえさせていただこうと思っておりますけれども、まず1つは平成24年度が美波町のサテライトオフィスの元年ということで、第1社目が来てくださったのが24年でありまして、今5年目を迎えておりまして、現在13社ということで今月にまた1社来てくださるといような予定になっておりますけれども、そういった中で空き家の問題は私どもも自分達の問題という風にとらえておりまして、昨年城山にある民間の建物、これはある方が別荘として使われていたところでございますけれども、それを町で買わせていただいて、整備をして、ある意味シェアハウスのようなもので使える、またお試しで使えるように、ていようなことをやらせていただいております。ですからこういった施設についてはサテライトのみならず移住の方にも使ってもらえるという風に思っているところでございます。

あともう1点は、サテライトオフィスから離れますけれども、地元の魅力といいますか宝物を掘り起こしていくことが大事かなという風なことで、昨年徳島県版の特区2つ挙げさせていただいて、認めていただいたものなんですけれども、1つはM委員さんにもおっしゃっていただいたような人形浄瑠璃の赤松座というのが明治の頃にありましたけれども、それが木偶は随分残っているんですけど、使い手がなくてということで、それを徳島文理大学の浄瑠璃部の方とコラボしながら町おこし、村おこしをしていこうというような取組み、それから美波町と言えばこの日和佐は特にそうなんですけれども、薬王寺の門前町というように、発展してきているということもございまして、昔の賑わいを取り戻そうということで、門前町の再生プロジェクトということで今年からやり始めてというところでございます。そういったような形でございまして、町だけではなかなかできません。ですから色んな方と、県はもちろんでございますけれども、各市町、そして住民の方々と協力しながら連携しながら、色々アドバイスをいただきながらやっていかななくてはいけないのが町の現状でございます。この県南地域ももちろんそうかなと思っておりますので、今後ともそれぞれ各界の皆様のご意見をい

ただきながらしっかり頑張っってやっていきたいと思っっておりますので、よろしくお願いを申し上げまして発言にかえさせていただきます。ありがとうございました。

(牟岐町長)

牟岐町長でございます。ここに参加しておられます市町で合併してないのは牟岐町だけなんですよね。結局は合併せずに職員は非常に少ないままで現在もやっておるというような状況でございます。これは言い訳をしてるんですけども、その中でですね、海部病院の建築造成だとか出羽島、出羽島はですね、人口が非常に減りまして消滅の危機にあるということで、これを残すにはどうしたらいいかということで、今現在重伝建の選定に向けて取組みを進めております。伝建が選定になるとですね、改修も非常にやりやすくなるということで、今は逆にですね、牟岐町の中で出羽島が将来的には一番有望でないかというような状況でございます。そういうことで先ほど来ですね、皆様方からご意見いただいておりますけれども、空き家の開拓っっているのが実は遅れております。現在は職員が直接当たらずに集落支援員の方に当たっていただいて、貸していただける空き家の掘り起こしをしているというような状況でございます。それと地方創生になるとですね、どうしてもその地方版DMOですか、DMVじゃなくてDMO、を進めていく必要があるということで、着地型観光ですね、先ほどQ委員の方からもご提案ございましたように、なんとかダイビング事業も活発にやっって地域にお客様を呼び込んでいただいたという思いもございまして、いかんせん漁師さんの中で受益者とそうでない方がおいでまして、これがなかなか意見統一ができないと。結局はその地域でやっぱり地方創生に向けた取組みが地域一丸となってできなければなかなか難しいということだと思います。空き家の問題にしても今申しましたDMOの問題にしてもですね、結局は地域の皆さんが本当に危機感を持って取り組まなければいけないということがようやくわかってきたような次第でございまして、これから地域の中に入っっていきながら進めてまいりたいと思っますので、皆様方の御指導御協力をどうかよろしくお願い申し上げます。

(那賀町長)

私の方からはこの南部圏域振興計画の大きな5項目について町の取組みと課題をお話させていただきますと思っます。まず1つ目の安全安心して暮らせる地域づくりということで、那賀町の驚敷地区が大きな被害を受けたということで、この秋からいよいよ着工をしていただくということで、取組みを進めていただいております。またそれに合わせて長安ロダムの改良促進も順調良く進めていただき、今年は70億という予算がついたという風にもきております。早期の完成をしていただきたいなと思っしております。それから地域医療ですが、やはり那賀町1病院4診療所、ここにはお医者さんそして看護師さんの確保、これが1番課題なんですけど、色々高度医療機械も入れてきたんですけど、これを入れますとやはり町民の方は確かに町内の病院でそういった対応をしていただけるんですけど、非常に看護師さん不足という中でそういったことをしますとなかなか看護師さんに重労働ということで、採用してもきつというところで辞められる方が出てくるというのも課題になっております。

それから続きまして2番目の県南ならではの産業による地域づくり、これにつきましては那賀町特に上流地域の木頭ゆず、これがブランド化の推進をしております。そうした中で中心であります木頭地区、ここに今きとうむらとか黄金の村とか柚冬庵とか色々な、JAさんとか加工品も入れて生産しております。やはり今後においてこの海外への輸出ということも含めると、どうしてもやはり統一なり一括しなければなかなか対応できないという、その中で中心に今やってくれているのが、メディアドウの藤田社長さんが新しい会社で統一をしていくという方向で今進めさせていただきます。

この9月の11日にそういったお話の会を開こうとしております。それから課題の林業なんです、木材生産量確かに県もそれぞれ動いていただいているんですが、国についても色々お話ありましたが、石破大臣がトップになってCLTを推奨してる、そして東京オリンピックもこのCLTを活用しようという話が出ております。ただそれらに合わせて色々なバイオ発電とか、そういうことに新たな木材の需要先、それが建築用材含めて対応していただいているんですが、やはり課題は価格だと。価格が上がらない。その中で建築用材にしても高級木材は要りません、耐久木も必要無い、そういった製材はもうすべて耐久木を割り箸にするような製材はないということで、木材価格は上がらない、安いものを使うとそういう状況です。バイオマスの発電にしてもCNFにしても、それらすべて使われるところはやはり安く仕入れよう、安く仕入れようします。そういうことで単価も上がらないというのがあると思います。先般も林野庁行ってこの対応策なんかかなりませんかというお話をさせていただいたんですが、やはり今の段階では使う所は構えたるけん供給地としては今の段階では自助努力というような感じを受けました。そういったことで我々産地としてやはり、その対応を動かしていかなくてはということは供給の方法、システムを変えるかなんかをしなければならないなど。あなたの会社にはこれだけの木材をこっだけ年間持って行くけん、こっだけの単価で売ってくれるかという単価交渉までせないかんのかなという感もしております。これらの対応をまた県の皆様方とも協議させていただいて対応させていただきたいと思います。

それから次の3番目なんです、交流が広がる地域づくり、これにつきましては先ほどからサーフィンが出ておりますがうち海岸ありませんのでサーフィンができないので、那賀町でもカヌーが以前からオリンピックでということもあるということで、今年カヌーで銅メダルを取られた方もおります。そういったことで那賀町でこのカヌーの選手を次のオリンピックに出そうということで、その体制づくりを進めております。この10月4日にはドイツのカヌーチームが那賀町で東京オリンピックを目指して合宿地の選定ということで、10月から1ヶ月ぐらい来ていただけることになっています。町としてもドイツの方にカヌー選手なりの方を派遣しようかなということも進めてございます。そういったことでできるだけ、藍住町からオリンピックの選手が出て、うちからも出て欲しいなと期待をかけていきたいと思います。それから今年川口ダムに自然エネルギーミュージアムをオープンしていただきました。それに合わせて那賀町のドローン特区で今色々な活用方法も含めてやっておりますが、先般、昨日もそれに基づいた映画を完成していただきまして、その試写会を見ました。これを機に国の特区の申請をしているところでございます。こうしたことで、これによって那賀町をできるだけ全国にPRをしていただき、移住なり那賀町に興味を持ってこちらに来ていただける方が1人でもいたらなと思います。

それから4番目なんです、自然とともに歩む地域づくり、やはり鳥獣害対策、これは非常にこれまでも力点を置いてきたんですが、年間4、5千万入れてもなかなか対策ができないというのも現実です。しかしニホンジカは地域によってはある程度減ったという声もいただいております。ただ今1番課題は街中の驚敷地区が増えてます。ここはちょっと鉄砲も使えないということでそういった形で安全なところへ逃げてくるのかなという気はするんですが、そういう状況ですが、できるだけこれについても対応していきたいと思います。

最後に支え合い次世代につなぐ地域づくりということで、若い世代の移住定住、先ほどからも移住者の問題色々出ております。空き家対策についてもやはり那賀町みたいところはたまには帰ってくる、もしかしたら都会にいても定年したら帰ってくる、そのために空き家にはしてあるんですけど荷物いっぱい置いてある。将来的にももしかしたら帰ってくるために、離したり貸したりするんはちょっとという方もおいでます。それからその貸すにしても荷物の整理が要ります。町としても引っ越

し費用あるいはリフォームの費用については支援しているんですが、なかなか全てが全て満足していただけないというのがあります。数件はそういったことで対応していただいている方もおいでます。それぞれ全町全て調査員を、空き家をお持ちの方の希望も含めて今調査をしているところです。それによって対応して参りたいと思いますし、やはり我々として移住者を招くこともいいんですが、出ていかれる方が若い方が非常に多いんです。定住してくれるための対策もということで、これまでも試験的に14戸ですか、定住住宅で家賃で償還してもらおう、これは確かに人気ありました。というのは、家賃はちょっと高いんですが、5万から7万ですが、ただ固定資産税要りません、利子要りません、そういったことでただこれは我々としては絶対に逃げられないような方法ということで、賃貸住宅だったら古くなったら出て行かれるのが、この家はあなたが払った分はこっだけ分払ってるんですよ、残りはこっだけですよということで一緒にここで住んでいただくということで、今後についても今これは浸水対策も合わせとんですが、地権者と交渉して驚敷の中心地区でない皆さん住みませんので、戸建てが50戸と連棟が2棟の用地の交渉を進めているというのが現状です。そういったことでなかなかそういったことで住んでいただいても、次に出てくるのが子育て支援です。やはり働きに那賀町から町外へ通うとなると帰るのが遅くなります。延長保育あるいは子育て支援センターの時間外の保育とかそういうのはあるんですが、それに合わせて今やっと1法人設立していただいとるんですがなかなか意に沿わないとか色々課題はあるんですが、ファミサポのNPO法人マミーズというのを設立していただいて、時間を最低でも7時か8時ぐらいまで預かってくれるような体制を築きたいなと思っております。

以上、5点の中で町が今進めている内容でした。この中でも色々先ほど委員さんからいただいた点も関連しますのでご報告と、それとOさんのファガスの森へ行く県道の改良については今年から部分的に着工しておりますのでよろしくお願いしたいと思います。以上です。

(阿南市長)

阿南市長でございます。時間も限られておりますので、ごく簡潔に2点ほど。私は以前から、最後にご発言されましたQさんの意見と全く同感で、私がAMAの交渉をここでお話したときにすぐに賛同していただきまして、阿南・室戸・安芸ということで、このあまという名前は運輸省の局長がですね、いや国交省か、このあまというのは愛するという意味ですからあまにしましょうと。今回名実ともに定住自立圏が県南1市、そして那賀、美波、牟岐、海陽とこれで県南が1つの家族になれましたので、これでスタートが切れると。この県南の定住圏で人口が10万2千人です。県境を越えまして東洋町いきまして、高知県の安芸市、芸西村まで入れますと、9町村あるんですが、室戸なんて1万3千人、安芸1万7千人、9町村で4万8千人なんです。高知県は町村合併が全然進まなかった。ほとんど進まなかった。で、今9町村で4万8千人。この県南と合わせて15万人なんです。私はこの15万人の人口を維持しようというのをいつも思ってるんです。ですから県境を越えてこの芸西村とかですね、北山村、馬路村全部入れて1つのエリアと考えているんです。そのためにQさんがおっしゃるように県境を越えて、取り組まなきゃいけないんです。しかし残念ながら高知県の定住自立圏というのは高知市周辺と四万十しかないんです。こっちの9町村はね、多分仲悪いんやと思うんですよ。しかし県のご了解を得たら、これ東部県民局みたいなのないんですよ高知は、こちらは南部県民局がありますから、知事さんと知事さんでね、尾崎知事にこの9町村を1つ固まりを作って、東部博もやったようですけど、県南と手をつないで欲しいという風なことを是非おっしゃっていただきたい。これがいわゆる8の字ルートの完成につながっていくと、同じ志を持ってやっていく。そして私は四国の右下もいいんですけど、離島以外の自治体で日本で1番自殺率が少ない土地は海部町なんですよ

ね。そのことを徳島県はほとんど知らん。ですから住み心地の良い地域っていうのが海部町なんです。それがこの沿線にある。日本で1番住み心地の良い地域があるんですよって、それが私達の海岸線ですよって。それを宣伝せなあかんのですよ。右下だけじゃだめなんです。来てみたら大したことない、はりまや橋も札幌の時計台も、ほなけど来るんですわ。やっぱほれも宣伝なんです。ほれを1つ言いたい。

もう1つはですね、資料6に、海陽町長さんと私驚いとんですが、一人暮らし、高齢者福祉で、平成22年25%だったのが平成27年20%で、県南で1番少なくなってるんですよ。これすごいことなんで、これどう分析したらいいですか。20頁、資料6。阿南市も19.1%から22%になってるんですけど。きゅうりは関係ないか。何か秘策があるのかなと思って。たとえば影治さんには申し訳ないけど美波町では368人から860人でしょ、うちも3,887人から4,909人に増えとんですよ。ほんで率も増えとんですよ。これ分析してまた教えてください。以上で終わります。

(副知事)

副知事でございます。皆様には今ほんとに色々な貴重なご意見をいただきまして、たいへんありがとうございます。私の方は現場主義、県民目線そして1歩先の未来をモットーにして仕事に取り組んでいるところでございますが、皆様方の意見につきましては将来の方向を示していただくものとして反映をしていきたい、そのようにまず思っているところでございます。

さて今国におきましては東京1極集中の是正、人口減少ということが大きな課題となっております、そういう中で地方創生に取り組んでいるというところでございます。本県は地方創生の旗手、トップランナーとして取組みを進めているということでありますが、地方創生と言いますのは言葉をちょっと変えてみますとまさに生き残りをかけた戦いということとなります。ですのでそういった取組みができないところはどんどん崩壊をし、消滅をしてしまう、本当に最後のチャンスが今の時期ではないかという風に思っているところであります。そういった中で徳島県というのは他の県よりも高齢化の問題なり課題が先にやってくる県、課題先進県と呼んでおりますが、課題先進県であります。また課題先進県だけでは駄目で、それを解決しないと生き残れないということでもございまして、課題解決先進県ということで地方創生の旗手として今取り組んでおります。この地域はさらに本県の中でもやはりある面におきましては課題が先にやってきて、それを解決していかななくてはならない、そういった地域ではないかということでございます。そういう中で皆様方には色々な新しい取組みをやっていただいております、まさに南部モデルを創っていただき、全県下に波及できるような取組みを進めていただいているんじゃないかという意味において、たいへんありがたく思っているところでございます。若干話を聞いて、私が気になったところを順次申し上げていきたいと思っております。

まずインフラの問題でございます。地方創生、国土強靱化の基盤となるインフラで、高速道路の話が先ほど出ておりましたけれども、これまで四国横断自動車道、阿南まで整備が進んでおまして、それより南の桑野・福井道路は事業着手し、その先に海部道路があるわけでございますが、やはりこれをどれだけスピードを持ってやっているかという風に思っているところでございます。今私国に対して本県の負担を増やしてでも早く事業が着手できるように、またスピード感を持ってやりたいという気持ちでやっているところで、そこの部分については私も知事から覚悟を持ってやってという風に言われているところでございます。

それと先ほど東京オリンピックのサーフィンと野球が新しい競技種目として打ち出されたというお話がございましたけれども、2019年から3年連続で3大国際スポーツ大会が連続で開催されるということになっております。2019年はラグビーワールドカップ、2020年は先ほど申し上げま

した東京オリンピック・パラリンピック、そして2021年は関西ワールドマスターズゲームズということで、本県にとりましてはこの3大国際スポーツというのは本当に大きな大きな最大限活用していかなければならないチャンスだという風に認識をしているところでございます。その中でこの地域ですとサーフィンなり阿南の野球がメッカということでございます。それはもう本当にキャンプ地なり開催地を誘致していくという気持ちでやって参りたいと思っておりますし、先ほど那賀町からカヌーのお話もございましたし、あとここは本当に自然豊かなところでアウトドアが恵まれているということで、トライアスロン、アクアスロン、話は出てませんでしたけれども今申し上げた種目については来年も誘致をしていきたい、そういうつもりでやっているところでございます。皆様とも連携をしながらということで進めていければというように思います。

あとDMVの話がございました。一方でBRTの話がありましたけれども、やはり生活の足のところは赤字経営になりがちということで、どうやって収入を増やしていくかっていうところが難しいところです。こういったところでDMVについては鉄道ファンがかなり来ていただけるということもありますし、さらに先ほど事務局からも説明がありましたように、室戸岬までの広域観光ルートを創ることができるということで、観光の起爆剤になるのではないか、そういった気持ちで今鋭意実現できるように進めているという状況でございます。

そして地域医療の話がございましたが、これは地域枠の話がございましたけれども、地域の医療がしっかりと維持できるように、制度は変わるようでございますけれども、しっかりと維持できるようにその部分は頑張っていきたいというように思っているところでございます。

また移住・定住の話で空き家の話がございました。Gさんには本当にアドバイザーとして全力でやっていたいておりまして、やはりあの空き家に入っていたかかないといけないのではないか、新しく作るというのがありますけれどもやはりその部分は既存のストックをできる限り活用していくという方向なのかなという風に思っておりますし、その部分はやはり色々と家主さんとの関係が難しい面がありますけれども、自治体、アドバイザー、県、関係するところが連携をしながら空き家の掘り起こし、あるいはそういった整備を進めていければという風に思っているところでございます。

それからあと少子化対策については最近ですが、トモニプラザにとくしまマリッジサポートセンター、結婚の縁組をするところを作ったところでございまして、こちらの方に人が来てそういった登録をしていただけるような、そういったこともやりながらこの南部地域がますます発展できるように取組みを進めていきたいという風に思っているところでございます。

今日は本当に時間がかなりかなり長くなりましたけれども、たいへん有意義なご意見を伺わせていただいたと思っておりますし、このご意見については私も知事にきちっと報告し、県政に反映できるように取組みを進めてまいりたいという風に思っておりますので、引き続きのご支援のほどをよろしくお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。